

表：指定廃棄物の基準に関する検討

| 指定廃棄物の基準に関する考え方※1※2                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 基準値のレベル<br>[Bq/kg] | (参考) 基準を超える一般廃棄物焼却灰の報告のあつた都県及び施設数※3      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|------------------------------------------|
| <b>オプション1</b><br>周辺住民：処理中に受ける追加被ばく線量を $1 \text{ mSv}/\text{年}$ 以下に、処理後に受ける追加被ばく線量を $10 \mu \text{Sv}/\text{年}$ 以下にする。<br>作業者：追加被ばく線量を $1 \text{ mSv}/\text{年}$ 以下にする。                                                                                                                               | 8,000              | 7都県（岩手県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都）<br>42施設 |
| <b>オプション2</b><br>周辺住民：処理中に受ける追加被ばく線量を $1 \text{ mSv}/\text{年}$ 以下に、処理後に受ける追加被ばく線量を $10 \mu \text{Sv}/\text{年}$ 以下にする。<br>作業者：電離則を適用する必要のないレベルにする。                                                                                                                                                   | 10,000             | 6都県（岩手県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、東京都）<br>39施設     |
| <b>オプション3</b><br>放射性セシウムの半減期を考慮して、一定の管理期間（現時点から 10 年）を経たのちに、オプション1の $8,000 \text{Bq/kg}$ 以下となる濃度。                                                                                                                                                                                                   | 16,000<br>※4       | 5県（岩手県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県）<br>26施設          |
| <b>オプション4</b><br>放射性セシウムの半減期を考慮して、一定の管理期間（現時点から 10 年）を経たのちに、オプション2の $10,000 \text{Bq/kg}$ 以下となる濃度。                                                                                                                                                                                                  | 20,000<br>※4       | 5県（岩手県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県）<br>21施設          |
| <b>オプション5</b><br>周辺住民：処理中に受ける追加被ばく線量を $1 \text{ mSv}/\text{年}$ 以下に、処理後に受ける追加被ばく線量を $10 \mu \text{Sv}/\text{年}$ 以下にする。ただし、放射性物質の地下水への溶出を抑えない場合、地下水を利用した農作物の摂取や地下水を利用して育てた飼料経由の畜産物の摂取に制限が必要となる。<br>作業者：追加被ばく線量は電離則が定める上限 $20 \text{ mSv}/\text{年}$ の半分である $10 \text{ mSv}/\text{年}$ となる。（特に対策を講じない場合） | 100,000            | なし                                       |

※1 考え方の根拠は安全評価シナリオの焼却処理シナリオ（併用ケースB）、埋設処分シナリオによる（第3回災害廃棄物検討会資料4）。

※2 処分場の跡地利用に一定の制限を設けることが必要。

※3 一般廃棄物処理施設における報告に基づく（8月24日時点）。

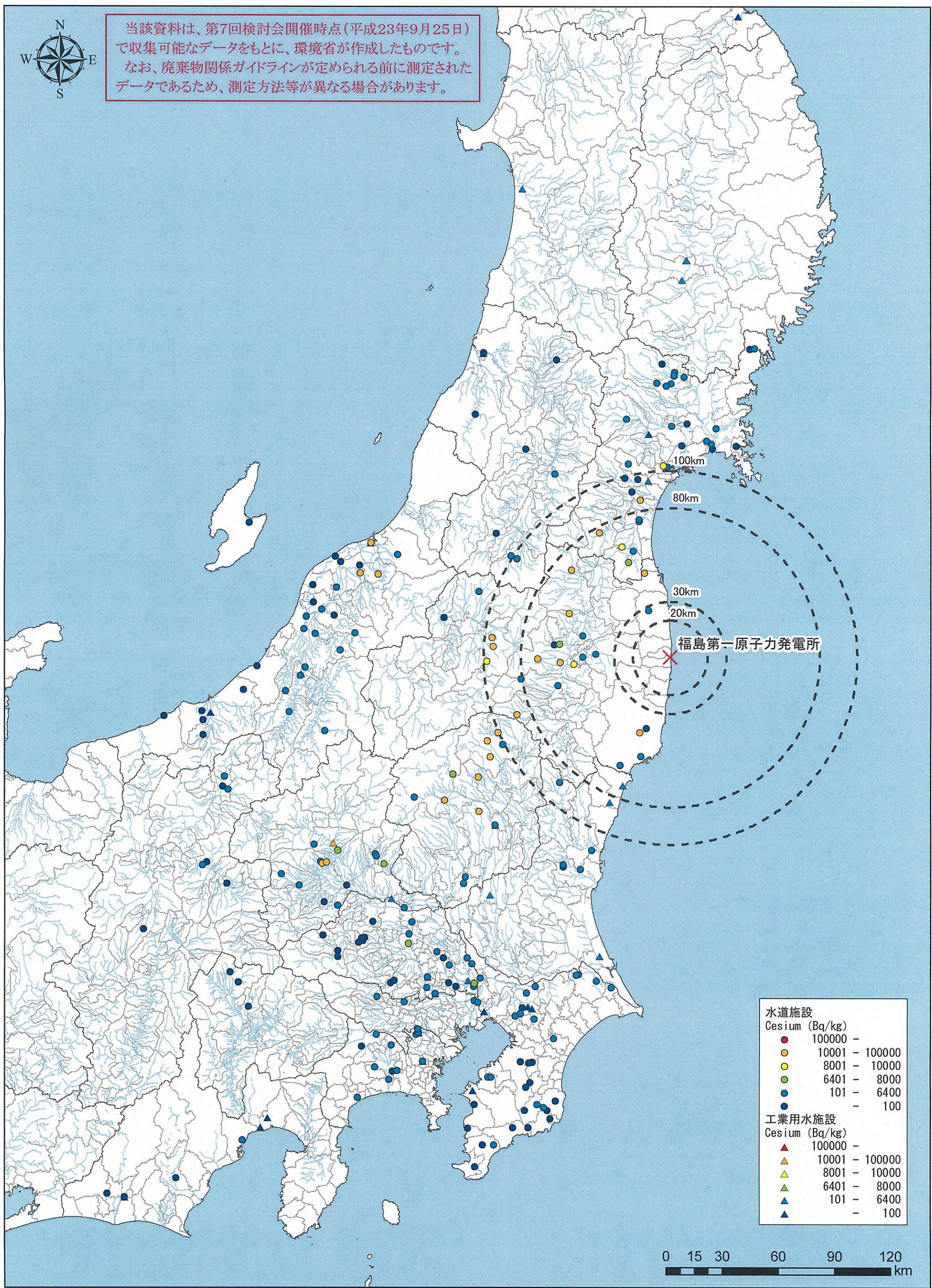
※4 Cs134（半減期 2 年）、Cs137（半減期 30 年）、存在比  $\text{Cs134/Cs137} = 0.806$  と仮定し、現時点の量を 1 とすると 10 年後は約 0.45 となる。保守的に 0.5 として濃度を導出。

### （論点）

- ・上記のオプションの内、指定の基準としてはどれが適当か。
- ・その他、適当な基準は考えられるか。
- ・焼却灰以外の廃棄物の指定基準は同じように設定して良いか。

# ①水道施設・工業用水道施設における発生汚泥の放射能濃度マップ

委員限り



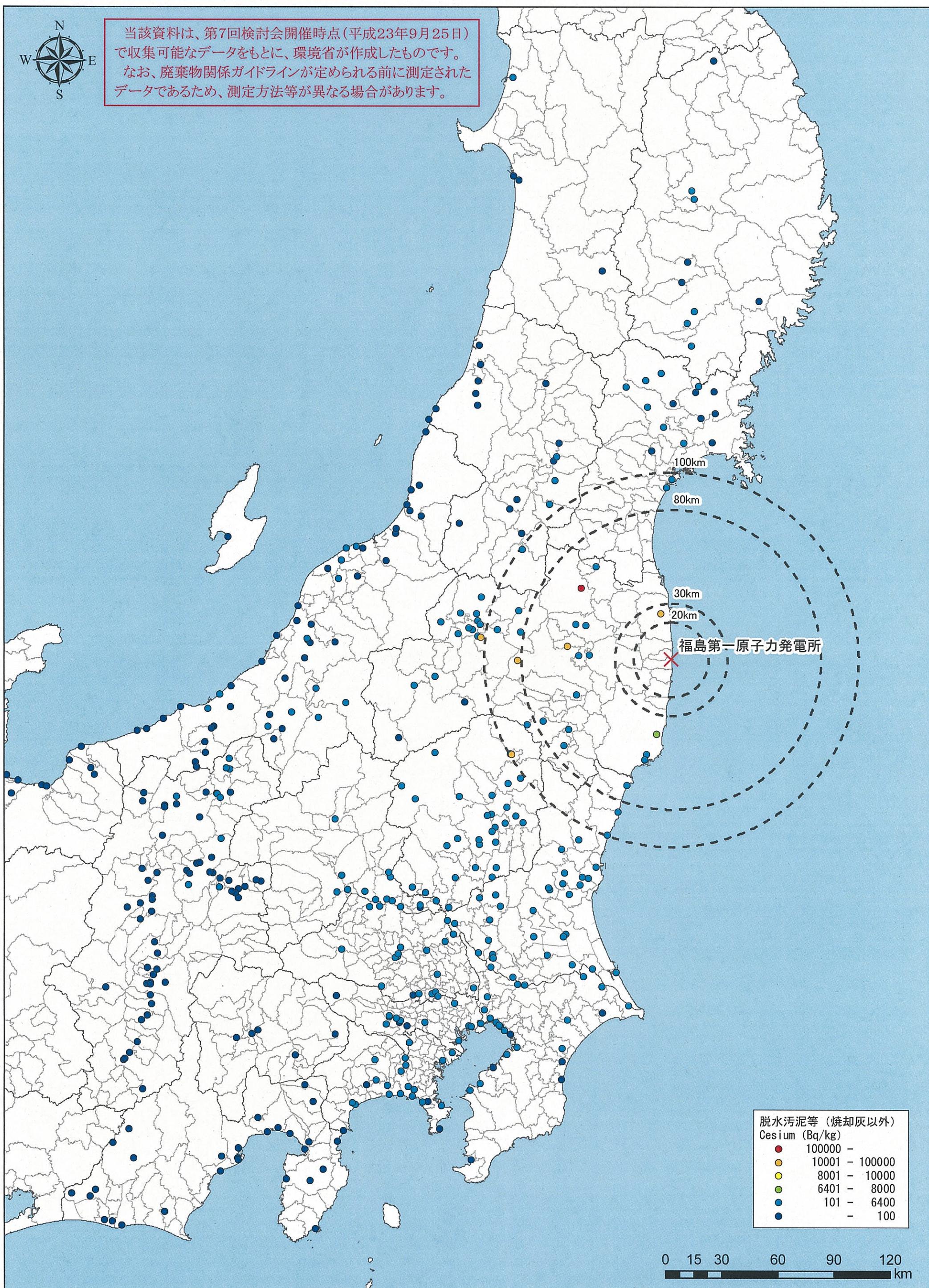
\*同一施設で、測定時期の異なる複数のデータが存在する場合は、放射能濃度の最も高いものを採用した。

地図調整:PASCO

地図の作成にあたっては、国土数値情報(行政区域、河川)を利用した。

## ②公共下水道・流域下水道における発生汚泥(焼却灰を除く)の放射能濃度マップ

委員限り



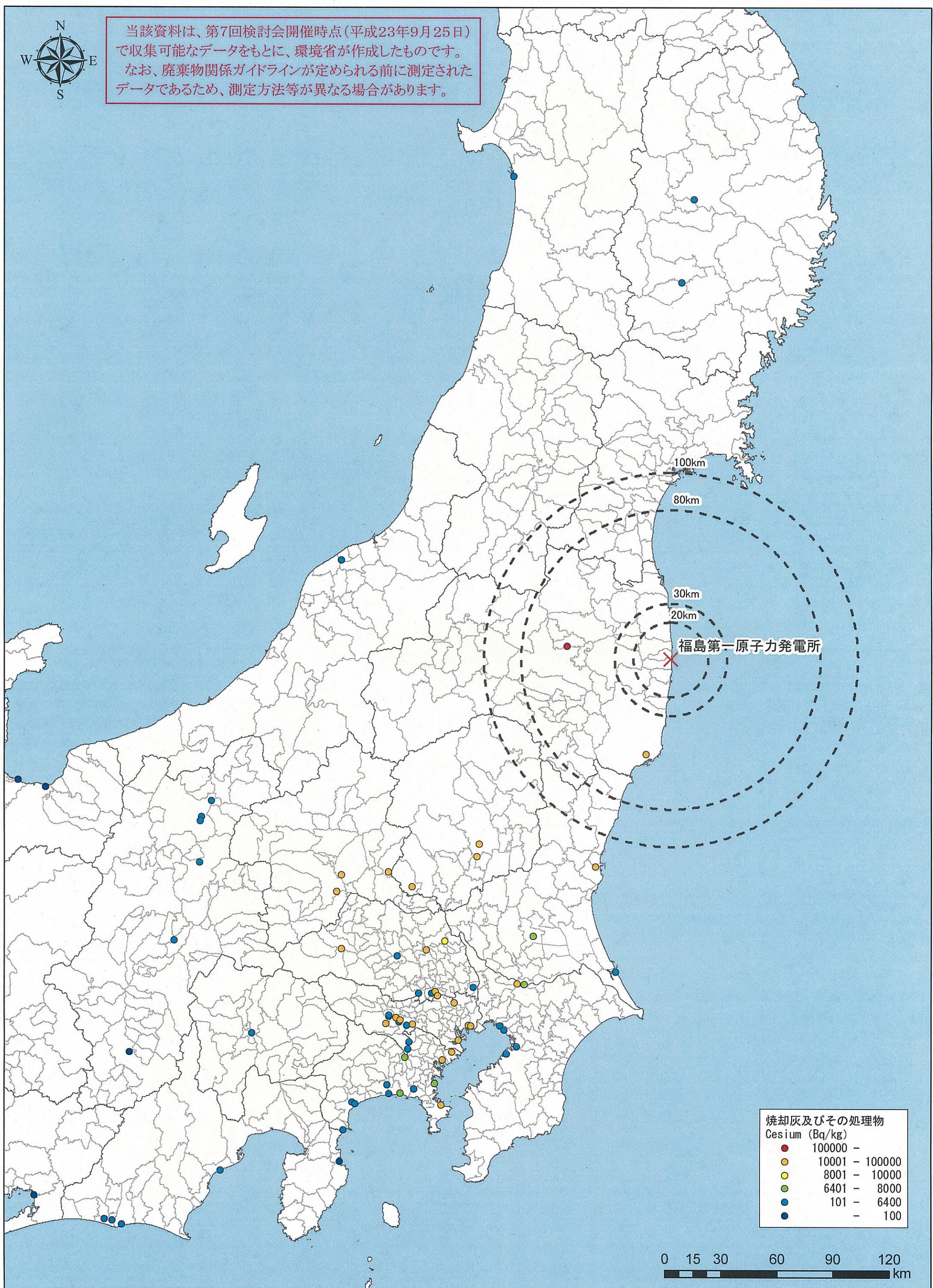
\*同一施設で、測定時期の異なる複数のデータが存在する場合は、放射能濃度の最も高いものを採用した。

地図調整:PASCO

地図の作成にあたっては、国土数値情報(行政区域)を利用した。

### ③公共下水道・流域下水道における発生汚泥の焼却灰及びその処理物の放射能濃度マップ

委員限り



\*同一施設で、測定時期の異なる複数のデータが存在する場合は、放射能濃度の最も高いものを採用した。

地図調整:PASCO

地図の作成にあたっては、国土数値情報(行政区域)を利用した。